

13

キャンプファイヤー【自主活動】

1 活動のねらい

活動をともにした仲間と炎を囲み、自己を見つめ直したり、協力することの大切さを考えるふりかえりの機会とします。

2 活動の概要

闇を照らす炎の神秘的な灯りの中で、火を迎え・送るセレモニー、炎を囲み演じるスタンツとレクリエーションをおし、参加者の仲間意識を深め、感動と思い出を刻む活動です。

3 人数（場所）・時間

- (1) 人数（場所） 200名程度（A営火場）
 100名程度（B営火場）
 50名程度（C・D営火場）
 ※C営火場：ソフトボールグラウンド
 ※D営火場：グラウンド
- (2) 期間 5月上旬（ゴールデンウィークあけ）～10月下旬
- (3) 時間 1時間～2時間程度（18:30～20:30頃まで）



4 指導について

活動は、原則、団体の自主活動となります。

なお、希望団体は、進行・レクリエーション等について、指導員を依頼することができます。

指導料は、1名につき7,700円（1時間30分）です。支払いは、活動終了後に現金又はコンビニ支払い、銀行振り込みをしてください。

5 準備する物

区分	内 容	備 考
団 体	・薪、マッチ、トーチ ・懐中電灯 ・営火長の衣装 ・音楽CD等	・薪セットは売店で購入可
貸出できるもの	・音響設備（カセットCDプレーヤー、マイク等） ・延長コード ・貸し出し用営火長の衣装（4セットまであります。）	

【薪セット料金】

種 類	内 容	人 数	金 額
キャンプファイヤー 大セット	・丸太20本（高さ45cm程度） ・薪3束、灯油1ℓ ・2時間程度の活動向け	80名程度	5,400円
キャンプファイヤー 中セット	・丸太16本（高さ35cm程度） ・薪2束、灯油1ℓ ・1時間～1.5時間程度の活動向け	40名以上	4,500円
たき火セット	・焚付け薪 ×1束 ・薪 ×2束	10名程度	1,100円

6 引率者の役割分担

項 目	内 容
健 康 観 察	参加者の健康状態を把握する
安 全 対 策	火の取り扱い，後片付けに注意を喚起する
事故発生時の対処	けがや事故が発生した場合は，直ちに事務室に連絡する

7 活動の流れ

活 動 の 流 れ		内 容	備 考
事前	講師依頼	・「指導依頼申込書」(講師依頼の場合)	・利用申込書と同時に提出
当日	薪の準備	・営火場に業者が薪を搬入 ・薪を井桁に組み上げる	
	機器の準備	・放送機器等を，事務室で借りる	
	活動実施	・営火(儀式，レクリエーション等)	
	活動の終了	・営火場の消火(十分に水をかけ消火) ・事務室に終了した旨を連絡 ・借用物品の返却(灯油の空容器は事務室へ)	
翌日	後始末	・朝の清掃時，残り火の完全消火を確認 ・灰と燃え残りは袋に入れ，灰置き場に運ぶ ・終了後，事務室に連絡する	・薪持込の場合，燃え残り等は，団体が持ち帰る

8 実施上の留意点

- (1) 風向きを考え，火災ややけど等に注意してください。
- (2) 実施後は，完全に消火したことを確認してください。
- (3) 薪の燃え残りを入れる袋は，事務室で受け取ってください。
- (4) 雨の場合でも薪をぬらすことのないよう，薪を組み上げたら実施直前まで備え付けのブルーシートを掛けておいてください。
- (5) 荒天で中止の場合，薪は水にぬれていない・火をつけない・灯油をかけていない状態での場合は返品可能です。
- (6) 周辺には外灯が少ないので暗闇で転んでケガ(コンクリートのイスに顔を強打する等)をする可能性があるため，実施前後は参加者に注意を呼びかけてください。

キャンプファイヤー展開例（3部形式）

1部…点火

2部…ゲームやスタンツ

3部…まとめ

★ あくまでも例なので、この内容にとらわれず、団体の性格や利用の目的に合ったものを自由に考えて実施する。

1 第1部（静かな雰囲気の中で：点火）

項目	内 容	留 意 事 項
①打合せ	・入場前にキャンプファイヤーの流れを説明する。	・気持ちの準備をして、静かに入場するよう指導する。
②入場	・全員静かに入場し、輪になる。 ・はじめのあいさつ。点火係紹介。	・静かな雰囲気です。
③点火	・点火係が入場し点火する。 ・火が大きくなってゆく様子を、全員で静かに見守る。	・ゆっくり輪の内側を一周し点火する。
④歌	・炎を見つめながら歌を歌う。 ・第2部に向けて気持ちを切り替える。 ・誕生日の人やうれしい出来事があれば、紹介しても良い。	・みんなが知っている歌を選ぶ。

2 第2部（明るく楽しい雰囲気の中で：明るい炎を囲んでのゲームやスタンツ）

全体での歌、レクリエーション、ダンスやグループ毎のスタンツ発表等、時間配分を考慮して実施する。

3 第3部（静かな雰囲気の中で：小さくなった炎を囲んでのまとめ）

項目	内 容	留 意 事 項
①詩の朗読等	・気持ちが落ち着くような詩や格言、本の一部を引用しても良い。	・今までの活動をふりかえる時間とする。
②まとめの言葉	・団体責任者が、これまでの活動を通して、感じたことや伝えたいことを話す。	
③歌	・終わりにふさわしい歌を選ぶ。	